

(2) 東北



東北地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

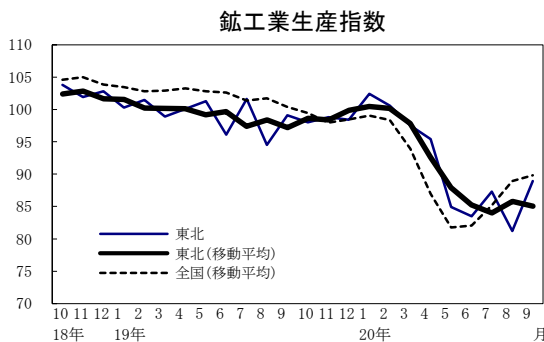
前回からの主要変更点

	前回 (令和2年9月)	今回 (令和2年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	→
鉱工業生産	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	このところ持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、生産用機械は半導体製造装置等が減少したこと、電子部品・デバイスは固定コンデンサ等が減少したこと等により、前期比2.4%減となった。月別では、7月に前月比4.6%増、8月に同7.0%減の後、9月は同9.5%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	15.3	▲10.6	▲11.1	▲3.5	▲2.8	9.7
食料品	11.0	▲6.7	4.1	2.9	▲5.2	6.1
化学・石油製品	9.1	▲10.1	▲6.9	▲6.8	▲9.2	32.9
輸送機械	7.9	▲30.9	39.3	46.9	1.0	24.6
生産用機械	6.7	▲1.3	▲28.8	▲6.1	▲21.0	8.3
鉱工業	100.0	▲12.3	▲2.4	4.6	▲7.0	9.5

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

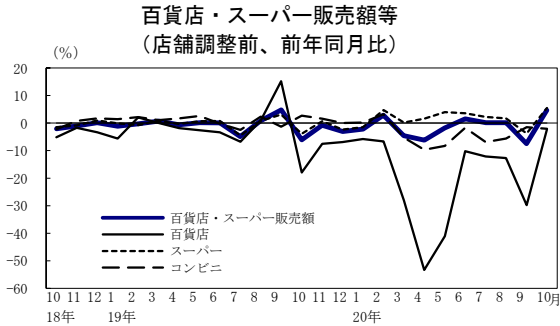
7-9月期は前期比0.2%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比2.1%減、7-9月期は同2.4%減となった。

百貨店は、4-6月期は同34.6%減、7-9月期は同18.4%減となった。

スーパーは、4-6月期は同3.1%増、7-9月期は同0.1%増となった。



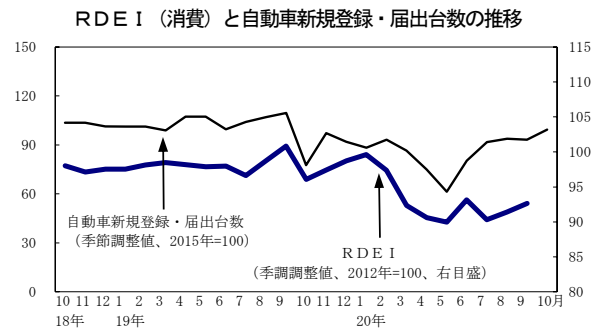
	2020年7-9月	2020年7月	8月	9月	10月
RDEI (消費*1)	0.2	▲3.0	1.2	1.3	—
百貨店・スーパー(*2)	▲2.4	0.2	0.2	▲7.5	4.7
百貨店(*2)	▲18.4	▲12.1	▲12.7	▲29.8	▲2.2
スーパー(*2)	0.1	2.3	1.7	▲3.7	5.5
コンビニ(*2)	▲4.7	▲6.9	▲5.6	▲1.5	▲2.0
乗用車(*3)	▲12.8	▲11.7	▲12.9	▲13.6	27.3
(季節調整値)(*3)	28.7	14.4	2.1	▲0.5	6.6

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2020年10月は速報値。

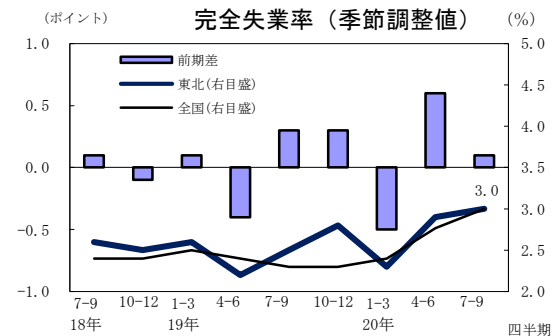
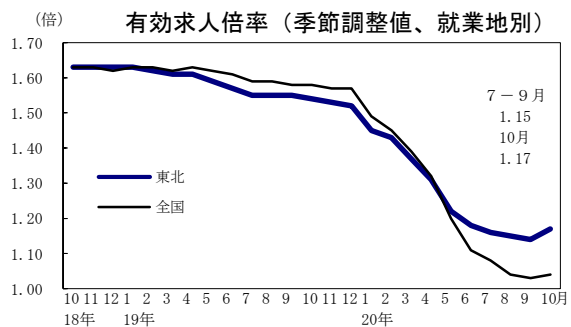
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和2年10月調査）景気判断理由の概要

2. 東北

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

現況	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの影響は避けられず、特にディナータイムの客はほぼいない。お昼の客は多少来ていただけるようにはなっているが、団体やパーティーが全く入らず、大変厳しい状況である（一般レストラン）。
○		・G o T oキャンペーンなどの景気刺激策が過剰とも思えるぐらいあり、効果も例年を上回る動きとなっているが、個人客が中心である（観光型旅館）。	
▲		・平日はそこそこ戻ってきているが、街中は土日人が激減する。催事が何も行われていないので、週末に人が戻り切れないという状況になっている（コンビニ）。	
企業 動向 関連	○	・まだまだコロナ禍前の状況には程遠いが、底を打って回復に向かっていることは確実である（金属製品製造業）。	
	□	・新型コロナウイルスの影響で、客先において設備投資計画に業績不振による延期や規模縮小となる案件が散見される一方で、一部設備投資を再開する客もあり、一概に悪化しているとも言いきれない（建設業）。	
	▲	・新型コロナウイルスが落ち着くかと思いきや、県内で発生しているクラスターの影響か、子を持つ女性の多くがモデルハウスへの入室にためらいをみせる。モデルハウスへの誘いが成約の第1歩なので、この事象に頭を抱える取引先が多い（その他企業 [企画業]）。	
雇用 関連	□	・有効求人数は2～3か月前辺りが最低値とみられ、その後徐々に増加してきている。ただし、有効求職者数も増加傾向にあることから、その結果、有効求人倍率は同程度の水準で推移している状況である（職業安定所）。	
	○	・募集再開をする企業が引き続き増えている。募集を検討する企業側の業績は必ずしも好調なわけではないが、事業計画の達成のための募集や組織の業務負担を軽減するための募集が増えている状況である（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：団体旅行は依然として動きが止まっている状況だが、個人旅行においてはG o T oキャンペーンの効果で回復基調となっており、ややではあるが良くなっている（旅行代理店）。 ▲：新型コロナウイルスによりイベントが中止になっている。当然売上も減っている（住関連専門店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	□	・年末年始の商戦は多少の期待感はあるが、現在まだまだ感染者数も増えており、逆に密を避けるため様々な分散化施策を打つことになるため、全体客数は減少し、売上への影響は否めない（百貨店）。
		▲	・変動要因がない。また、コロナ禍の影響により、年末年始の移動需要の縮小が想定される（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。
	企業 動向 関連	□	・G o T oキャンペーン継続中ではあるが、これから冬に向かうにつれ観光客の動きも鈍くなる時期に入る。また、寒くなることで新型コロナウイルスの感染拡大も懸念される（食料品製造業）。
		○	・客の本格的なテレワーク及びリモート授業導入に向けて、スマートデバイスの要望が増えてきている（通信業）。
	雇用 関連	□	・表面的には回復基調にみえるが、新型コロナウイルスの隣県でのクラスター発生や第2波の流行により、瞬時に下降線をたどることが予想される。実際、地域内で感染関連のニュースが流れた翌日は外出を控える傾向がみられる（新聞社 [求人広告]）。
その他の特徴 コメント			□：現在はG o T oキャンペーンがあるためクーポンで売上はあるが、なくなった途端の落差がかなり懸念される。以前と変わらないか、悪くなるか本当に微妙なところである。東京オリンピックが開催されたとしてもいつもとは異なる東京オリンピックになるだろうし、正直悪くなるのではとも考える（テーマパーク）。 ▲：G o T oキャンペーン効果を期待しているが、新型コロナウイルス感染が広がれば外出を控える傾向になり、来客数に即影響する。例年の忘年会、新年会を中止する動きがあり、年末年始の景気はやや悪化する（商店街）。

(D I)

現況・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

